

 令和3年度～令和7年度(5年間)

地方創生 第2期うきは市ルネッサンス戦略 PDCAシート



基本方針



1) うきはの資源活用と新たな雇用の創出



2) 地域コミュニティの再生と都市部からの人の呼び込み



3) 結婚から子育てを経て生涯夢を持ち生活することができるうきは市



4) 時代にあつたうきはの地域づくりと広域的な地域間連携

1)うきはの資源活用と新たな雇用の創出(戦略P119)

概要	うきは市に存在する多様な資源を活かして、新たな産業の創出を図るとともに、既存の事業所への事業承継支援を行い、雇用の場を確保します。 これにより、現在大きな社会減を示している若い世代について、高校卒業後の地元就職、大学卒業後の地元回帰等を促進するとともに、起業・創業者等の積極的な呼び込みを図ります。	KPI	市民一人当たりの年間所得額	
		現状値	2,398千円	H29年度
ねらい	うきは市の特徴として、豊かで美味しい地下水や温泉、フルーツと、これらを目的とした観光などがあります。一つひとつを磨き上げ、活用し、上手に連携させていくことで、多くの人が魅力を感じるブランドへと作り上げていきます。	目標値	2,600千円	R7年度
		最新値	2,439千円	R元年度

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度事業化	具体的な取組内容(又は取り組まない理由)	進捗状況
1 農業やうきはの水、テロワールを伝承する						
KPI	新規就農者数	農林振興課	農政係	平成22年度以降累計 179人→230人	207人	令和3年度
①収益性の高い農業への転換等の支援	農林振興課	農政係	・産地形成による作物栽培支援	○	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を軽減するため、次期作に向けて取り組む農業者に対して経営支援を行うことで、離農を防ぎ、産地維持としての取組を行った。	A
	農林振興課	農政係	・新品種栽培等に対する支援や複合的農業経営への転換の推進	○	作物の転換や品種の切り換えに対して事業推進を行い、収益性の高い品目・品種へ切り替えを実施した。	A
	農林振興課 うきはブランド推進課	農政係 商工振興係	・高付加価値化や農工商連携、6次産業化を推進	○	平成29年度よりスタートした「地域産業資源活用事業補助金」「産業連携支援事業補助金」について、各事業者の補助金の活用際に、細かな事業のチェックを伴う伴走型の支援を行った。	A
	農林振興課	農政係	・販売力強化と販路拡大の取組	○	新型コロナウイルス感染症拡大のため、販売促進活動等を行うことができなかったが、JAを中心とした販売先との協議を行った。	C
	農林振興課	農政係	・農業生産法人や民間企業と連携した共同経営による農業振興	○	新型コロナウイルス感染症拡大のため、農業生産法人・民間企業との協議を持つことができなかった。	D
	農林振興課	農政係	・農地へのITセンサー導入やドローンによる薬剤散布等のスマート農業を行う農業者への経済的支援	○	ドローン、トラクター、コンバイン等のスマート農業機械の導入に取り組んだ。	A
②農林業の担い手の育成、支援	農林振興課	農政係	・就農希望者に対する恒常的な相談窓口の設置や専門相談員の配置	○	市・JA・普及センターによる相談会を毎月1回実施した。	A
	農林振興課	農政係	・新規就農者への総合的な研修	○	年間2回の新規就農者の面談及び随時相談を行った。	A
	農林振興課 うきはブランド推進課	農政係 地域振興係	・居住用家屋の確保と就業地のあっせんをワンセットにした支援	○	半農半X推進事業で、農業をしながら副業で生計を立てていく移住者へむけ支援を行った。	A
	農林振興課	農政係	・新規就農者を受け入れる農業生産法人の活動支援	○	トマト・果樹の就農希望者をうきはレインボーファームの研修生として受け入れを実施した。	A
③良質なうきはの地下水や生物多様性のPR	水環境課	水資源対策係	・地下水の水質のモニタリングや、うきはの水資源について広報紙やホームページ等で広くPR	○	地下水の水位・水質及び河川の水質の観測を継続的に実施し、水資源に関する広報紙やホームページでの積極的なPRを図った。	A
	水環境課	水資源対策係	・生物多様性に関する市内調査と保全活動に伴う戦略の展開	○	市内の動植物に関する文献調査の実施し、現状把握を目的とした調査計画案の作成や、モニタリング指標種候補の選定を行った。	A

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度 事業化	具体的な取組内容(又は取り組まない理由)	進捗状況
2 うきはのブランド力を高めます						
KPI 観光入込客数	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	240万人→250万人		190万人	令和3年度
①地域産業資源の洗い出しと商品企画	うきはブランド推進課	商工振興係 ブランド戦略係	・うきはブランドの構築に寄与する新商品や企画、サービスとなり得る素材の活用や認知度向上に取り組む事業者等の支援	○	うきは市商工会による「JAPANブランド育成支援等事業」(中小企業庁)により、海外に対するうきはブランドの構築に寄与する新商品開発及びマーケティング事業を実施した。	A
	うきはブランド推進課	商工振興係 ブランド戦略係	・既存の地域資源を活用した商品開発やうきはブランド力の維持向上	○	平成29年度よりスタートした「地域産業資源活用事業補助金」により、各事業者の補助金の活用に際し、細かな事業のチェックを伴う伴走型の支援を行った。	A
	うきはブランド推進課	商工振興係	・社会課題の解決に向けて新しいサービスの開発や提供を担う事業者の支援	○	社会課題解決プロジェクト事業費補助金を創設し、2社を事業者として採択し、支援を行った。	A
②DMOを中心とした観光振興におけるマーケティングと広報戦略の立案	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・SNSやブログ解析等でのターゲットを絞った観光入込客への広告戦略の立案	○	テレビとSNSのメディアミックスを行い、うきは市内の観光ルートやスポットを紹介する取り組みを行った。	A
	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・DMOによる観光振興の推進と地域の稼ぐ力を引き出す観光地経営の視点に立った観光地域づくりの実現	○	うきは観光みらいづくり公社がDMOの本法人を取得し、観光庁の補助事業の採択を受け、稲荷神社のライトアップイベントや筑後川の土石放水路でのキャンペーン等を実施した。	A
③商品の販路開拓	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・関係人口やパートナー企業等と連携した市場ニーズにあった商品の販路開拓	○	パートナー企業と連携し、うきは市のフルーツを活用した商品の販売イベント等を実施した。	A
	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・地域おこし協力隊の活用やふるさと納税の増加策の推進	○	ふるさと納税のインターネットサイトや返礼品数の拡充を図り、寄附額は前年度比で1千万円弱増加した。	A
④温泉街のブランドづくり	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・市内温泉街の観光客回帰に向けた、関係者間の協力によるブランドづくりの推進	○	温泉総選挙うる肌部門の旅館別のランキングで、筑後川温泉の旅館が1位に輝くなど、泉質のブランド力向上を図った。	B
	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・新しい生活様式に対応した取組と旅行プランの開発支援	○	キャンペーンの実施や、山間部の河川を活用したテントサウナの模索などを行った。	A
⑤道の駅開発事業	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・道の駅の増強による誘客につながる開発整備の検討	○	道の駅うきはが国土交通省より防災道の駅の選定を受け、地域防災の拠点となるため、関係団体との協議を進めた。	A
3 事業や仕事をしたい希望を叶える						
KPI 創業支援実現数	うきはブランド推進課	商工振興係	平成27年度以降 93名→186名		133名	令和3年度
①児童生徒の地元企業探訪支援	うきはブランド推進課	商工振興係 ブランド戦略係	・高校生以下の地元企業現地視察やインターンシップとまちづくり活動への協力の取組	○	新規高卒者等人材確保応援補助金を創設し、市内事業者の人材不足の解消や職場定着のための人材育成を図った。	B
	うきはブランド推進課	商工振興係	・就業希望者と地元企業のマッチング	○	うきは市無料職業紹介所を開設し、地元求人企業と求職者のマッチングを実施した。それにより53名の就職先が決定した。	A
②創業支援の充実	うきはブランド推進課	商工振興係	・創業希望者に対する起業から起業後のアフターフォローまでの伴走型による支援	○	創業希望者に対してスタートアップセミナー等を実施し、令和3年度は20事業者が創業した。今後も関係機関と連携し、起業後の事業継続を目指したサポートの強化も図っていく。	A
	うきはブランド推進課	商工振興係	・副業や兼業を後押しする勉強会やセミナーの開催と社会人の学び直し(リカレント教育)	○	久留米地区職業訓練センターと連携し、イラストレーターとフォトショップの基本講座を開催し、定員を上回る募集があった。今後も、副業等に有益な講座を開催していく。	A
	うきはブランド推進課	商工振興係	・デジタルテクノロジーを活用した市内人材の育成	○	子ども向けのプログラミング教室を実施し、定員を上回る募集があった。今後もデジタル人材の育成を継続していく。	A

2) 地域コミュニティの再生と都市部からの人の呼び込み(戦略P121)

概要	うきは市の魅力を高め、対外的に情報発信を行うことにより、UJターン者など都市部からの人の呼び込みを図り、多様な価値観を持つ市民の連携を高めることにより、地域の活性化を図ります。	KPI	うきは市へのUターン者	
		現状値	69人	R元年
ねらい	「住む」というテーマでうきは市の魅力を高めるためには、うきは市の資源を空間的、時間的な切り口で捉え活用を図るとともに、人々が世代を越えて未永く定住できるように、災害に対応した安全安心な住環境や公共交通の整備、うきは市を知り郷土愛を深めることなど、多面的な形で環境整備を図ります。	目標値	100人	R7年
		最新値	79人	R3年

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度事業化	具体的な取組内容(又は取り組めない理由)	進捗状況
1 空き家の解消に向けて取り組みます						
KPI	老朽危険家屋除去件数	住環境建設課	建設管理係	平成29年度以降累計45件→105件	84件	令和3年度
①まちなみ再生と空き家活用支援	うきはブランド推進課	商工振興係 地域振興係	・市街地エリア内の空き家情報と利活用希望者をつなぎ、多様な利活用や活性促進	○	空き家のリフォーム補助や空き家バンクの登録制度を行った。また、吉井町内の築年数の古い空き家の活用について、企業とのマッチングや意見交換会などを実施した。	A
	うきはブランド推進課	地域振興係	・空き家物件を確保する中で障壁となる課題の整理と対策	○	担当部署が連携し、合同での空き家相談会を実施した。	B
	うきはブランド推進課	地域振興係	・古民家の流通促進	○	空き家になる前に相続や相談する機会を設けてもらうよう、空き家どうする便利帳を作成し、配布を行った。	B
	うきはブランド推進課	商工振興係 地域振興係	・うきは駅周辺の空き物件を活性化し賑わいの創出	×	空き物件等の活用の可能性を模索したが、事業化に至らなかった	E
②誘致企業で働く就業者への支援	うきはブランド推進課	商工振興係	・都市圏から移住して就業する者への支援	○	移住相談窓口、創業相談窓口、無料職業紹介所の3つの機能を有するU-BIGにて、各種相談に対する支援を行った。	B
2 減災・防災のまちづくりを推進します						
KPI	自主防災組織率	市民協働推進課	消防防災係	81%→95%	88%	令和3年度
①防災力強化事業	総務課 市民協働推進課	情報政策係 消防防災係	・SNSを活用した連絡網の構築	○	うきは市公式LINEアカウントを通じて、避難情報やイベントなど、細やかな情報発信を行った。	A
	建設課 市民協働推進課	公共土木係 消防防災係	・河川氾濫監視システムや避難所対応等の減災に関するICTの活用検討	○	LoGoチャットを活用し、各避難所の開設状況や避難者数の報告を行うなどの取り組みを実施した。	B
	市民協働推進課	消防防災係	・避難所施設の通信環境の整備	×	避難所のWiFi設備整備を検討したが、財源が確保を確保することができなかった。	C
	市民協働推進課	消防防災係	・自主防災組織化の推進と活動支援や避難訓練の取組	○	地域防災力強化事業補助金を創設し、防災資機材、防災訓練、防災士の育成に対する支援を行い、新たに2名の防災士育成を行った。	B
②高齢者安全運転促進事業	市民協働推進課	消防防災係	・高齢者が運転する自家用車への踏み間違い防止装置や安全運転支援機能付きドライブレコーダーの設置支援	○	新たに33件のドライブレコーダー設置及び1件の急発進防止装置取付の補助を行い、高齢者の交通安全対策に寄与した。	A
③公園の再編	建設課	建設管理係	・点在する公園の適正な管理	○	草刈り及び樹木管理等に係る業務を実施し、各公園を適切に管理することができた。	A
	建設課	建設管理係	・子育て世代に魅力ある公園の再編整備	○	子育て世代向け公園の整備に向けて、市職員で構成する検討部会で協議し、今後の公園整備の方向性について関係所管との合意形成を整えることができた。	B

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度 事業化	具体的な取組内容(又は取り組めない理由)	進捗状況
3 公共交通や周辺整備に取り組みます						
KPI	コミュニティバス等の利用者数	市民協働推進課	コミュニティ支援係	コミュニティバスや乗合タクシー、補助金を支出している民間バス路線の総利用者数 11,027人→14,000人	10,006人	令和3年度
①新交通システムの導入検討	市民協働推進課	コミュニティ支援係	・ITやAIを活用して輸送を効率化するサービスの実装に向けた課題整理と導入に向けた取組	○	他の自治体で実施されている先進事例を紹介する研修会等に参加し、情報の収集や現況の把握に努めた。	C
	市民協働推進課 うきはブランド推進課	コミュニティ支援係 ブランド戦略係	・観光者の輸送実証試験	×	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観光客の受け入れも制限される中で特別な取り組みは行えなかった。	E
4 郷土の魅力を高めます						
KPI	関係人口「UKIHA FANCLUB」会員数	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	450人→1000人	500人	令和3年度
①近代遺産の活用	生涯学習課	文化財保護係	・円形劇場や筑後吉井、新川田籠伝統的建造物群保存地区の地域資源の活用	○	筑後吉井地区において、官民連携による歴史資源等を活用した取り組みを実施している。(古民家等を改修した民泊施設等の活用等)	A
	生涯学習課 うきはブランド推進課	文化財保護係 ブランド戦略係	・デジタル技術を用いた地域資源のPR	○	コロナ禍に対応した、オンライン社会科見学を実施した。(五庄屋関係)(実施回数:20回、参加者:約2,000人)	A
	都市計画準備課	計画・準備係	・フィルムコミッションによる映画制作	○	フィルムコミッションのインターネットを経由し、遊休施設でのプロモーションビデオの撮影を2件行った。また、映画製作のロケーションハンティングの支援を1件行った。	C
②歴史的な小道を歩くフットパス事業	うきはブランド推進課	地域振興係	・耳納山麓や山城跡、温泉、田園など歴史ある地域資源や風景を楽しみながら歩けるフットパスの整備	○	歴史の小道の案内看板を22基設置し、環境整備を行った。	B
	うきはブランド推進課	地域振興係	・森林セラピーにおける体験型プログラムの取組	○	新たな体験プログラムの開発に向けてモニターツアーを実施し、新規体験プログラムを造成し、販売まで行った。	A
	うきはブランド推進課	地域振興係	・多面的な連携による回遊ルートの確保とPR	○	歴史の小道をPRするため、パンフレットを作成し、プロモーション活動を行った。	C
③現存する歴史的遺産を活かした観光振興事業	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・装飾古墳が集積する地域の価値を見出して保存と活用を図る集客への取組	○	うきは市の古墳カードを作成し、九州の他の地域と連携した九州古墳カードの作成にむけ準備を進めた。	B
	うきはブランド推進課	ブランド戦略係 地域振興係	・棚田の保全と活用による関係人口づくりプロジェクト	○	棚田まなび隊やうきはプロの支援を実施し、棚田を活用した関係人口の構築を図った。	A
④知識や能力を身につける「まなび舎うきは」	生涯学習課	社会教育係	・外国人を含む市民が活動や学習を通じて知識や能力を身につけ、地域社会に還元して生涯活躍できる社会を実現	○	市民の生涯学習・人材育成を推進することを目的とし、うきは市民大学を開講。4つの学部計60講座(自主運営含む)を展開し、運営を行った。	A
	うきはブランド推進課	地域振興係	・持続可能な社会に向けたエコミュージアムの実現	○	浮羽まると博物館協議会の取組みを支援した。	A
⑤移住者向けの街なか案内事業	うきはブランド推進課	商工振興係 地域振興係	・移住者が速やかに市内の生活に溶け込めるように買物先や交通手段、子どもが遊べる場所等を地域とともに紹介	○	令和元年度に製作したパンフレット(うきは暮らしはじまりbook)を転入時に市民課の窓口で継続して配付を行った。また、市内で買い物をしてもらうため、プレミアム商品券を発行した。	A

3)結婚から子育てを経て生涯夢を持ち生活することができるうきは市(戦略P123)

概要	うきは市が将来的に人口を維持していくためには、子どもを安心して育てられる環境を整備することが重要であり、このために各世代の特性に対応する形で環境整備を進めます。また、高齢化が進むうきは市においては、高齢者自体の生きがいつくりや社会参画を高めていくことが必要であり、この活力を子育て環境の充実に活かしていくことも重要です。	KPI	合計特殊出生率	
		現状値	1.65	平成25～29年
ねらい	子育て世代への支援を充実強化し、子育てしやすいまちにすることが目的です。また、すべての世代が安心して生活できるうきは市の形成を図るとともに、健康づくりに力を入れ、安定した社会保障制度を維持していく必要があります。	目標値	1.80	令和3～7年
		最新値	1.65	平成25～29年

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度事業化	具体的な取組内容(又は取組まない理由)	進捗状況
1 子育て支援を推進します						
KPI	保育所入所待機児童数	福祉事務所	保育所係	5人→0人	0人	令和3年度
①小中高校における人材育成の推進	学校教育課 うきはブランド推進課	学事係 ブランド戦略係	・ふるさとの教育等を通じた地元への理解や愛着の醸成	○	インターネット通信を活用し、小学生に対してうきは市の農業や観光について、講義を行った。	C
	学校教育課 うきはブランド推進課	学事係 ブランド戦略係	・地域と協働して地域を支える人材の育成	○	地域おこし協力隊を活用し、地域の行事等に積極的に参加し、交流を深めた。	C
②地域協働等による高校の魅力向上	企画財政課 うきはブランド推進課	企画調整係 ブランド戦略係	・高校と地域の多様な主体が連携し、高校生の興味関心と地域の課題を丁寧に取り合わせるための協働体制組織(コンソーシアム)の構築	○	浮羽写真館高校と連携し、Instagram等のSNSを活用した情報発信等を行った。	B
	市民協働推進課 うきはブランド推進課	コミュニティ支援係 ブランド戦略係	・地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組	○	各地区で抱えている地域課題について再確認を行い、新たな課題解決に向けた取り組みの検討を行った。	B
③子育てママの働く応援事業	福祉事務所 うきはブランド推進課	子育て支援係 商工振興係	・起業や就業を目指す女性等に向けた講座の実施や情報提供、相談	○	調剤薬局事務講座を開催し、受講者全員が資格を取得し、うち2名が医療機関に就職するなど、就労を支援した。	A
	うきはブランド推進課	商工振興係	・U-BiCにおける女性の短時間就労支援等の取組の加速化	○	久留米地区職業訓練センターと連携し、イラストレーターとフォトショップの基本講座を開催し、自宅で短時間でも仕事ができるスキルの習得を支援した。	A
2 結婚と出産したい希望を叶えます						
KPI	結婚新生活支援金交付件数	企画財政課	企画調整係	平成28年度以降 28件→78件	63件	令和3年度
①結婚理解促進活動	企画財政課	企画調整係	・配偶者に会おう場や機会など婚活への理解促進	○	新型コロナウイルスの影響により、婚活イベント等の実施が困難であったため、福岡県とワーキンググループを作成し、勉強会を行った。また、来年度のイベント開催に向けて、意見交換を行った。	C
②出産や不妊にかかる経済的支援	保健課	食育・健康対策係	・不妊治療への支援	○	不妊治療の経済的負担の軽減を図るために福岡県が行っている助成制度について、チラシの窓口配置、相談・電話対応等によりその周知、利用促進を図った。	C
	保健課	食育・健康対策係	・産後ケア事業の充実等を通じた妊娠や出産への支援	○	生後4か月健診未満の母子を対象し、産科医療機関にて日帰り又は宿泊にて母子のケアや相談等を受け、安心して子育てできるよう支援を行う。	A
③子育て世帯への支援	福祉事務所	子育て支援係	・出産応援金の給付	×	予算確保が困難となり、実施ができなかった。	E

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度 事業化	具体的な取組内容(又は取組まない理由)	進捗状況
3 うきはっ子が世界に羽ばたく教育を推進します						
KPI 自尊感情の向上	学校教育課	学事係	全国学習状況調査の4段階自己評価)で、将来の夢や目標があるに4「そう思う」と回答した中学3年生の割合 35.9%→40.0%		37.60%	令和3年度
①英語力アップと異文化理解の相互交流	学校教育課	学事係	・幼稚園、小中学校での英語力向上の取組	○	実践的なコミュニケーション能力の向上を目指し、JETプログラム事業により招聘したALT等を活用した授業を、小・中学校で実施した。	B
	企画財政課	企画調整係	・近隣大学等と連携した外国人留学生等との英会話や異文化の相互交流	○	地域おこし協力隊が主催する国際交流事業に対して、補助金等の支援を行った。	D
②ICT教育の充実	学校教育課	学事係	・タブレット端末や情報通信ネットワークの整備	○	各小・中学校での整備が完了し、それを活用した授業等を実施した。	A
	学校教育課	学事係	・ICT専門コーディネーターの配置	○	4月より専門員を雇用し、各学校を巡回しICT教育の質の向上と教職員のスキルアップを図っている。	A
	学校教育課	学事係	・学力向上に向けたプログラミング教育等の推進	○	県からの委託事業を受けている千年小学校を中心に推進している。	A
③子どもの生きる力の育成	生涯学習課	社会教育係	・体験学習や自然活動を通じた生きる力やたくましさの醸成	○	うきは市民大学の子ども未来学部で、鷹取登山や長崎県壱岐島での体験活動を計画し準備を進めたが、新型コロナ感染拡大により中止となった。	E
	生涯学習課	社会教育係	・離島での体験活動等と人的交流の推進	○	うきは市民大学の子ども未来学部で、長崎県壱岐島での体験活動を計画し準備を進めたが、新型コロナ感染拡大により中止となった。	E
	学校教育課	学事係	・中学校部活動指導コーディネーターの配置	○	部活動外部指導員の配置を行った。	C
④豊かな心育成事業	福祉事務所 生涯学習課	保育所係 社会教育係 スポーツ文化振興係	・音感(リトミック)教育や文化教育など人間の感性を活かす教育の提供	○	リズム感を高めることで運動パフォーマンスを向上させることを目的としたスポーツリズムトレーニング教室を、幼児を対象としてうきはアリーナで開催するなど、教育の場を提供を図った。	A
	福祉事務所	保育所係	・講師による保育士等への指導	○	リトミック研究センターより講師を招き、年9回実施。17名の保育士が参加をし、2月には指導資格認定試験を受け、15名受験したうち、15名が合格した。	A
	学校教育課	学事係	・専任スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置	○	小中学校配置のスクールと別に配置し、各種相談に応じていく。	A

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度 事業化	具体的な取組内容(又は取組まない理由)	進捗状況
4 「うきは市＝健康のまち」を推進します						
KPI 市が主催や共催するスポーツイベント数	生涯学習課	スポーツ文化振興係	4事業→8事業		8事業	令和3年度
①スポーツと予防医療活動の推進	保健課 生涯学習課	食育・健康対策係 スポーツ文化振興係	・運動やスポーツの習慣化による健康のまちづくり	○	健康診査の結果、運動習慣の改善が必要な者に対し、個別に保健師や管理栄養士が対応した。糖尿病の個別フォロー者に対しては、運動の必要性や習慣化にむけた教育を行った。	C
	うきはブランド推進課	ブランド戦略係	・温泉等との連携による予防医療活動	○	温泉の効能や泉質に対するプロモーション活動等は行ったが、予防医療に結び付けることができなかった。	D
	生涯学習課	スポーツ文化振興係	・トップアスリートとの触れ合いを通じたスポーツ人口の増加	○	元Jリーガーなどのトップアスリートを招待し、小学生を対象としたサッカー教室等のイベントを実施し、触れ合いの場を提供した。	A
②うきは的健康事業の推進	生涯学習課	スポーツ文化振興係	・就学前児童への水泳などスポーツや運動習慣の推進	○	年長児を対象とした水泳教室をうきはアリーナで行うなど、運動習慣の推進を図った。	A
	保健課 生涯学習課	食育・健康対策係 スポーツ文化振興係	・健康に結びつく事業同士の連携	○	産後1年の産婦を対象とした産後ボディケア教室について、総合体育館を運営している指定管理者と連携し行っている。また、住民健診を総合体育館にて行う事で、健康維持のための施設利用を促している。	C
③生きがい対策プログラム	生涯学習課	社会教育係	・コミュニティや各種団体など職場と家庭以外の第3の場への参加の推進	○	高齢者の健康と生きがいづくり、高齢者学習の充実を目的に、うきは市民大学のいきいき学部で、講座を1つ、課外活動を8つ開設した。ただ、新型コロナウイルス感染拡大により、大幅に活動が制限された。	C
	市民協働推進課	コミュニティ支援係	・市民のボランティア活動の促進	○	各地区自治協議会において、高齢者等を対象とした見守り活動や、送迎サービス等の取り組みを実施した。	A
④ウォーキングのまちづくりの推進	保健課 生涯学習課	食育・健康対策係 スポーツ文化振興係	・スマホアプリを活用した健康づくりや地域通貨との運動も視野に入れたスポーツの推進	×	高齢者に対する受け入れが可能か懸念されることや、費用対効果や評価方法の問題、マンパワー不足もあり、取り組むことが困難であった。	E

4) 時代にあつたうきはの地域づくりと広域的な地域間連携(戦略P125)

概要	価値観の多様性や新型コロナウイルスの影響もあり、社会環境が変化する中で、働き方改革や新たな生活様式への対応が必要になっています。うきは市の地域づくりにおいても、今後の社会のあり方を見据えて対応を図っていくことが重要となっています。	KPI	広域的連携事業(単なる会議等は除く)	
		現状値	31件(うち人的交流を伴うもの19件)	令和元年
ねらい	デュアルライフ(二拠点生活)をはじめとした多様な居住形態の実現や、地理的空間を越えた多様な地域間連携などを通じて、豊かな農村環境の中に存在しているうきは市の立ち位置を明確にし、うきは市としての個性ある地域の活性化を図ります。また、いつでもどこでも学べる生涯学習環境を整え、文化度の高いまちづくりを推進します。	目標値	50件(うち人的交流を伴うもの30件)	令和7年
		最新値	37件(うち人的交流を伴うもの14件)	令和3年

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度事業化	具体的な取組内容(又は取り組まない理由)	進捗状況
1 デュアルライフを促進します						
KPI	地域づくり活動費補助金申請団体数	市民協働推進課	コミュニティ支援係	13団体→16団体	5団体	令和3年度
①UJターンやデュアルライフの促進	うきはブランド推進課	地域振興係	・UターンやJターン、Iターン、二地域居住生活者等への活動支援	○	空き家リフォーム補助金や結婚新生活支援補助金などで支援を図るとともに、新たな支援策について検討を行った。	A
	うきはブランド推進課	地域振興係	・デュアルライフ大使の取組と活用	○	うきは暮らしをPRしてもらうために、デュアルライフ推進大使と共にプロモーション活動を行った。	B
②つばめの学校	市民協働推進課	コミュニティ支援係	・同窓会を通じた市外転出者との連携の構築	×	市外転出者が主な事業対象者となるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業実施を中止した。	E
	市民協働推進課 うきはブランド推進課	コミュニティ支援係 ブランド戦略係	・うきはへの再訪や新たな関係づくりを展開し、出会いの機会の創出と地域活性化の推進	×	市外転出者が主な事業対象者となるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業実施を中止した。	E
③地域おこしリーダーの育成支援	市民協働推進課 うきはブランド推進課	コミュニティ支援係 地域振興係	・次代のまちおこし団体リーダーの育成支援	○	自治協議会に対し、県などが開催する各種研修会等の周知を行ったが、行政職員や自治協議会の現役役員の参加にとどまり、若年層の参加に繋げることができなかった。	B
	市民協働推進課 うきはブランド推進課	コミュニティ支援係 地域振興係	・まちづくり団体の取組支援	○	(コ)まちづくり団体等の行う事業に対し、地域づくり活動費補助金を交付し、支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、申請数が伸びなかった。	B
④ワーケーションの推進	都市計画準備課	計画・準備係	・勤務地以外の場所に設置するサテライトオフィスの立地促進	○	うきは市内で新たにサテライトオフィスとして使用できる店舗や宿泊施設等について、ホームページ等に掲載し、利用の促進を図った。	C
	都市計画準備課	計画・準備係	・ワーケーションの受入に伴う運営スキルの養成	○	パンフレットを作成し、ワーケーションを検討される企業に配布した。また、観光ホームページにもワーケーションの情報を掲載しプロモーション活動を行ったが、運営スキルの養成までには及ばなかった。	C

事業一覧	課	係	事業内容	R3年度 事業化	具体的な取組内容(又は取組まない理由)	進捗状況
2 遠隔技術でつながる新たなスタイルを構築します						
KPI デジタル申請受付数	総務課 市民生活課	情報政策係 住民係	年間 0件→240件		356件	令和3年度
①生涯学習リモート(遠隔)講座の開講	生涯学習課	社会教育係	・専門的な講座や新規講座のリモートによる開催	○	市民からリモート講座開催の要望がなかったため、実際の実施に至らなかった。	C
	生涯学習課	社会教育係	・オンライン環境の整備	○	リモート講座開催にむけて、オンライン環境の整備を進めた。	B
②遠隔でつながる見守り活動	保健課	介護高齢者支援係	・新しい生活様式や緊急時に対応したタブレット等の整備とコミュニケーションの取組	○	見守りが必要と思われる高齢者に対して電話回線を利用した緊急通報システムを配備し、見守りシステムの拡充を図った。	B
	保健課	介護高齢者支援係	・リモートによる見守り活動の実施検討	○	リモートによる見守り活動等にはスマートフォンの活用が不可欠であると考え、高齢者のスマートフォン教室を開催するなどし、実施体制の構築を図った。	C
③各組織の役員の負担を減らす遠隔技術の活用	市民協働推進課 生涯学習課 福祉事務所	消防防災係 コミュニティ支援係 社会教育係 福祉係	・消防団やPTA、自治会、民生委員等の会合をリモートで実施する	○	自治協議会を対象として開催する一部の会議について、リモート会議を導入した。	B
	市民協働推進課 生涯学習課 福祉事務所	消防防災係 コミュニティ支援係 社会教育係 福祉係	・情報収集や発信についてSNS等の活用を検討	○	一部の自治協議会で、ホームページの開設やラインの導入による情報発信を開始した。	B
④協働のまちづくりを推進する遠隔会議の開催	市民協働推進課	コミュニティ支援係	・リモートによる協働のまちづくりワークショップの開催	○	自治協議会や他の市町村関係者を対象とした、リモートによる研修会を企画し、開催した。	B
⑤デジタル社会の推進	総務課 市民生活課	情報政策係 住民係	・Society5.0社会の市民手続きのデジタル化とペーパーレス化	○	広報うきはへの掲載依頼や、キャンプ場の利用申請については本人認証等不要のため、オンライン申請を開始した。住民票の写し申請等については、稼働開始にむけて準備を進めた。	C
	総務課	情報政策係	・デジタル変革に対応する時代に合ったホームページの構築	○	職員の負担を減らしながらも、利用者ニーズやSNSを含むインターネットの技術革新に柔軟に対応できるシステムを構築し、運用を開始した。	A
	総務課	情報政策係	・情報化アドバイザーの活用	○	ホームページの構築のため、情報化アドバイザーを活用した。また、アドバイザーを通じて関連企業と連携を図り、妊産婦タクシー電子チケットなどのシステムを新たに構築した。	B